

人と森をつなぐ情報誌
RINYA

林

9
2026
No.234

野



特集

レクリエーションの森へ
出かけよう!!

令和8年 緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰

受賞者 紹介

緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰とは、緑化推進運動の実施について、顕著な功績のあった個人又は団体に対し、内閣総理大臣が表彰を行うものです。
令和8年は13の個人・団体が受賞されました。本誌では毎号、受賞者の方々をご紹介します。

阿武町立福賀小学校（山口県阿武郡阿武町）

同校は、豊かな自然環境を活かした緑化活動を地域と連携しながら実施しています。

児童が主体となり校内の花の植替えや花壇整備を実施するほか、地域団体や卒業生と協力して樹木の剪定や草刈りを行うなど、校内全体の自然環境の維持管理に地域一体となって取り組んでいます。

また、地元の林業団体等の協力を得て実施している森林体験学習では、森林や林業に関する講義の受講やなめこやしいたけの原木へのコマ打ち体験、木工作品作りなどを通じて、森林と人々の生活との関わりについて学んでいます。これらの活動を通じて児童に育まれる緑化意識は、校外にも波及しており、地域の緑化推進に寄与するとともに、地域の人々への緑化意識の普及啓発にもつながっています。

※活動ウェブページ <https://sites.google.com/abutownedu.org/fukuga/>



▲ 児童と地域の皆さん



▲ 校内の環境整備活動



▲ 木工作品作り

過去の受賞者については林野庁ウェブサイトをご覧ください。

https://www.rinya.maff.go.jp/j/sanson_ryokka/hyosyo/con1.html



人と森をつなぐ情報誌



表紙の写真：異形ブナ林（秋田県）



<https://www.contactus.maff.go.jp/rinya/form/kouhou/202609.html>

Contents

- 03 **特集** 「レクリエーションの森」へ出かけよう!!
- 07 **TOPICS 01** 森林（もり）の仕事パーク
- 08 **TOPICS 02** ケニア森林プロジェクトの40年を振り返る
- 10 **TOPICS 03** 林業高校におけるスマート林業教育の取組について
- 12 **森林総研の最新研究** 終わらないマツ材線虫病被害、終わりなき研究対応
- 14 **フォレスター（森林総合監理士）の活動日記** 森林総合監理士が実践する未来へつなぐ人づくり
- 16 **国有林野事業の取組** 瞬間サンプリング法による野生動物の生息密度調査について
- 18 **TOPICS 04** 令和8年度 こども霞が関見学デーを開催しました！
- 19 **みどりの大使が行く！** 防災士の資格取得 / 林野火災・被災木利用セミナー / moritomirai のファシリテーター

お詫びと訂正

8月号の記事において、記載内容に誤りがありましたので、訂正してお詫び申し上げます。

訂正箇所 10頁 [三保松原]の表記
(誤) 三保の松原 (正) 三保松原
(ウェブページは修正済です)



特集

レクリエーションの森 へ出かけよう

日本の国土の多くは、豊かな森林に囲まれています。

林野庁では、みなさまに広く森林に親しんでいただけるよう、優れた自然景観を持ち、森林浴や自然観察などの自然とのふれあいに適した国有林を「レクリエーションの森」に設定しています。その中から特にお薦めする7箇所を、4月号と今月号の2回に分けてご紹介します。

※記事で紹介した施設やイベントの営業・開催状況については、事前に主催者のウェブサイト等でご確認ください。

林野庁のウェブサイトでは『にっぽんうつく日本美しの森 お薦め国有林』の見どころや魅力あふれる映像をご紹介します！



レクリエーションの森のうち、特に景観が優れた93箇所を『日本美しの森 お薦め国有林』に選定しており、こちらからご覧になれます。

◀レクリエーションの森：林野庁



ドローンによる空撮映像はこちらをご覧ください。

◀ドローン空撮映像：林野庁

写真 左上：関東森林管理局 奥浜名自然休養林（二三月峠展望台から見る浜名湖と遠州灘） 右上：中部森林管理局 付知峡自然休養林（高樺の滝）
左下：東北森林管理局 鳥海自然休養林（鳥海マリモ） 右下：東北森林管理局 鳥海自然休養林（紅葉時期の遊歩道）

鳥海自然休養林

秋田県にかほ市 (中島台地区)

『あがりこブナ』が息づく鳥海の森

概要

ちようかい

鳥海自然休養林(中島台地区)は、山形県と秋田県に跨がる標高2,236mの鳥海山の北側中腹に位置しており、ブナを主体とした巨木の森が広がる景勝地となっています。

鳥海山は、55万年前から続く火山活動によって富士山に似た美しい形をなし、長い年月をかけて地中に蓄えられた水の豊富な湧水地となるとともに、多くの湿原が広がっています。

この地域のブナはかつて炭焼きに利用されていましたが、切り株から多くの新しい芽が生えるブナの特徴を生かして、同じ根株から伸びた木が繰り返し伐採されていました。伐採は積雪が締まって固まる早春に行われ、地面から1m程度高い位置で切られたために、幹の上がったところで多くの“子”に分かれている姿から、「あ(上)がりこ(子)」と呼ばれる特徴的な姿をしています。

楽しみ方

休養林内の一番の見どころは、推定樹齢300年以上、幹回り7.6m、樹高25mの「あがりこ大王」です。ミズナラや異形のブナ林を通った遊歩道の先にあり、空に向かって大きく枝を広げる姿には王様のような風格が感じられます。そのほか、「出つぼ(壺)」と呼ばれるいくつもの湧水池を有する、国指定天然記念物「ししがはな獅子ヶ鼻湿原」の中を一周するコースも魅力的です。世界的にも珍しい「鳥海マリモ」というコケの群落を清流の中で見ることができ、大きいもので50～100年の歳月をかけて育った1mを超えるボール状のコケもあります。

ブナ林では、初夏には美しい新緑を、秋には黄金色の黄葉を楽しめるほか、鳥のさえずりや小川のせせらぎに耳をすませながら、ゆったりと散策するのがおすすめです。休養林の近くには、高さ26m、幅11mで流れ落ちる「なそ奈曽の白滝」や、岩肌一帯から



あがりこ大王

アクセス



公共交通機関の場合

きさかた

象潟駅→(タクシー、レンタカー：30分(13km))
→中島台地区



自動車の場合

象潟ICから車で15分、12km 無料駐車場あり

参考URL

一般社団法人にかほ市観光協会
<http://www.nikaho-kanko.jp>

秋田県公式観光サイト アキタファン
<https://akita-fun.jp/>



鳥海マリモ (提供：にかほ市)



清水湧き出る出つぼ

1日5万トンもの水が湧き出る「もとたきふくりゆうすい元滝伏流水」といった迫力ある滝もあるので、ぜひ訪れてみてください。

奥浜名自然休養林

静岡県浜松市

手軽に楽しめる日帰り登山 浜名湖とみかん畑の眺め 身近な癒やしスポット

概要

奥浜名自然休養林は、静岡県西端、浜名湖の北側「遠州の奥座敷」^{えんしゅう}とも呼ばれる地域にある森林で、標高563mの富幕山^{とんまくやま}や432mの尉ヶ峰^{じようが}を中心とする緩やかな丘陵地となっています。森林の9割がスギ・ヒノキの人工林ですが、シイ・カシ・ツバキ類などの常緑広葉樹に加えて、コナラ・クリ・ヒコサンヒメシャラなどの落葉広葉樹も生育しており、多様で豊かな植生が見られます。

本自然休養林の特長は、尾根や山頂からの眺望です。緩やかな弧を描く海岸の手前には浜名湖、奥には遠州灘、その上には空が広がり、晴れた日には湖・海・空が一体となった美しい青色に染められた光景に出会えます。ほぼ全域が浜名湖県立自然公園に指定され、気軽に楽しめる日帰りハイキングコースが整備されているほか、浜名湖の北側に沿って走る天竜浜名湖鉄道からのアクセスも良いことから、毎年多くの方が訪れる人気スポットとなっています。

楽しみ方

休養林内のハイキングコースでは、春や初夏にはヤマユリやオカトラノオ、秋にはマツムシソウやハギなどの花々が楽しめるほか、山裾に広がるみかん畑が眺められるのも特徴の一つです。また、コースの道中には案内板や休憩ポイントが多く整備されており、登山経験が少ない方でも安心して楽しむことができます。

コースに応じて特徴があり、「奥山コース」は奥山無料駐車場から富幕山山頂までのコースで、比較的傾斜が緩やかで、距離も4.7km、片道約1時間40分と手軽に散策^{さんさく}できます。「佐久米コース」は浜名湖佐久米駅から尉ヶ峰山頂へと続く5.7km、片道約2時間20分のコースで、ウグイスやヒタキなどのバードウォッチングを楽しめ、「細江コース」は細江公園（最寄駅は気賀駅）から



富幕山に咲くヤマユリ



尉ヶ峰から望む浜名湖（湖・海・空が一体となった風景に出会える）

アクセス

公共交通機関の場合

- ※いずれも天竜浜名湖鉄道の最寄駅から各コースのスタート地点まで
- ・奥山コース：金指駅からバスで約20分（奥山バス停下車）
- ・佐久米コース：浜名湖佐久米駅から徒歩0分
- ・細江コース：気賀駅から徒歩約20分

自動車の場合

- ・奥山コース：新東名浜松いなさICから車で約10分（奥山無料駐車場）
無料駐車場あり
- ・細江コース：東名三ヶ日ICから車で約15分（細江公園）
無料駐車場あり
- （※佐久米コースは、駐車場がないため天竜浜名湖鉄道をご利用ください）

参考 URL

奥浜名自然歩道ハイキングガイド／浜松市
<https://www.city.hamamatsu.shizuoka.jp/n-machi/hikingguide.html>



尉ヶ峰を経て富幕山山頂に至る11.6km、片道約4時間のロングコースで、二三月峠^{にさんがつ}の展望台からは浜松市中心部を望めます。（なお、只木コースは、大雨被害のため現在通行止めです。）

ハイキングを楽しんだ後は、浜名湖の美しい景色を一望できる温泉で足の疲れを癒やしたり、うなぎや牡蠣といった新鮮な魚介などの浜名湖グルメを堪能したりするのもおすすめです。



遊歩道沿いに咲くハギ

付知峡自然休養林

岐阜県中津川市付知町

透き通る「^{つけち}付知ブルー」に包まれる
～^{つけちきょう}付知峡自然休養林～

概要

^{つけちきょう}付知峡自然休養林は、木曽川の支流の一つである付知川源流域「付知峡」を中心とする森林で、岐阜県の東南部に位置する、深山の情緒に満ちた森と渓谷が織りなす景勝地です。「森林浴の森日本100選」に選定されているほか、この地域一帯は伊勢神宮の式年遷宮に使われる御用材の伐採式が行われるなど、古来より良質なヒノキの産地としても知られています。川底まで透き通るエメラルドグリーンの付知川と、赤や黄色に色づいた紅葉とのコントラストは息をのむほどの美しさで、印象的な美しい写真が撮れるスポットとしても有名です。

楽しみ方

付知峡は「飛騨・美濃紅葉33選」にも選ばれた紅葉の絶景スポットです。その中でも特に、森林浴や紅葉狩りにお薦めの場所は「不動公園」です。吊り橋や木道を歩く1周約40分のコースでは、豪快に水しぶきを上げる雄大な「不動滝」や、岩肌を美しく流れ落ちる「観音滝」を眺めながら、付知川の青い輝きと燃えるような紅葉とのコントラストを楽しめます。

さらに、休養林内で最大級の落差を誇る「^{たかだる}高樽の滝」は、高さ約20mから落ちる見事な直瀑（水の流れ口から、岩壁を離れ、また岩壁に沿ってほぼ垂直に一気に落下する滝のこと）で、橋から滝を見下ろす視点と眺望台から見上げる視点の両方を楽しむことができるほか、天気の良い日には滝壺付近に架かる虹にも出会えます。周辺にはキャンプ場も多くあります。日常を忘れて、ゆっくりと自然の中に佇む時間を過ごしてみるのも良いのではないのでしょうか。



観音滝



高樽の滝



紅葉彩る付知峡



川底まで透き通るエメラルドグリーンの付知川

アクセス

自動車のみ

自動車の場合

中央自動車道

中津川ICから国道257号経由で約48km、約1時間。

不動滝付近に無料駐車場あり。 無料駐車場あり

参考 URL

一般社団法人 中津川観光協会

<https://nakatsugawa.town/>

付知町観光協会

<https://www.tsukechi.jp/>



★もり★の★仕事★パーク

すべて
無料!

森とつながり、はたらき、あそぶ！ — 見て、ふれて、体験する森林・林業の世界 —

木の香りに包まれながら、五感で森林や林業の魅力を体験できるイベント「森林（もり）の仕事パーク」が開催されます。

林業に触れるのが初めての方でも楽しめる、森林（もり）と出会う特別な一日です。自然やアウトドアが好きな方、移住や林業の仕事に興味がある方、体を動かすことが好きな方など、こどもから大人までどなたでも気軽に参加できます。

会場では、森林・林業の現場を身近に感じられるアクティビティや、林業関係の仕事の魅力を知る展示・相談コーナーを通して、森林と林業の奥深さに触れることができます。この秋、あなたも森林（もり）とつながる一歩を踏み出してみませんか。

街の真ん中で森林を感じる「全国森林組合連合会主催イベント」

● 南海なんば駅前広場（令和8年11月28日（土）・29日（日））

この2日間、大阪府の南海なんば駅前広場が「森林（もり）」に変身します。会場では、就業相談、現役フォレストワーカーによるトークショー、ヒノキチップの詰め放題、安全装備品の展示、チェーンソー作業を体験できるVR、枝払い体験、年輪ダーツなど、森林・林業の魅力を体感できる多彩なコンテンツが盛りだくさんです。

大型イベントで森林を感じる「出展型イベント」

「森林（もり）の仕事パーク」は、各地の大型イベントにも出展予定です。

● アウトドアデイズジャパン神戸 2026（令和8年9月26日（土）・27日（日）／メリケンパーク）

● フィールドスタイルエキスポ（令和8年11月14日（土）・15日（日）／愛知国際展示場）

森林・林業の魅力を知り、体験や相談を通して新たな一歩を踏み出すきっかけに！

※「全国森林組合連合会主催イベント」「出展型イベント」の両イベントコンテンツは一部変更となる場合がございます。

SNSで知る森林の仕事

イベントをきっかけに「林業」へ興味を持たれた方は、ぜひ「緑の雇用 RINGYOU.NET」のInstagramもチェックしてみてください。フォレストワーカーの日常や仕事の様子等を発信しており、林業への就業や地方への移住後の暮らしなど、林業を仕事にするイメージをより具体的に感じていただけます。

オンラインで気軽に相談

「林業就業」に興味を持った方向けに、自宅から気軽に参加できる「森林（もり）の仕事オンラインガイド」を秋と冬に2回開催予定です。

ZOOMのブレイクアウトルーム機能を活用し、都道府県ごとの担当者と直接話すことができます。「ちょっと林業のことを聞いてみたい」という方にもおすすめです。このほか都道府県の担当者に随時相談できる「林業就業オンライン相談」も実施しています。

イベントの開催情報・オンライン相談等はこちらからチェック！

緑の雇用 RINGYOU.NET

▶ <https://www.ringyou.net/>



緑の雇用 RINGYOU.NET 公式 Instagram

アカウントフォローで森林・林業情報ゲット！



就業相談コーナー



森林（もり）の仕事トークショー



ヒノキチップ詰め放題



チェーンソー作業を体験できるVR

ケニア森林プロジェクトの40年を振り返る

メリア造林に見る協力の成果

プロジェクトの概要

アフリカ東部のケニアでは、国土の8割以上が雨の少ない乾燥地や半乾燥地に分類されます。1970年代以降、人口増加や薪炭材の過剰利用などを背景に森林減少や土地劣化が急速に進行し、地域住民の生活基盤が脅かされていきました。こうした課題に対応するため、独立行政法人国際協力機構（JICA）は、地域住民の生活向上や福祉増進、環境保全、さらには農村の持続可能な発展に貢献するための森林づくり（社会林業）を支援することを目的として、1985年にケニアの半乾燥地を対象とした協力を開始しました。以来40年もの間、継続的にプロジェクトが実施されており、現在も協力が続く息の長い取組となっています。

初期の技術開発（1985-2002）

（1）樹種の選出と苗木生産の普及

初期の活動で苦労したことの一つは、乾燥地に適した植林技術の開発です。日本とは全く異なる乾燥した環境の中で、その土地に適した樹種を100種以上試験するとともに、苗木の育成や植栽の方法について試行錯誤を重ねました。さらに、現地の人々に植林の方法を普及していく必要があり、その道のりは容易ではありませんでした。しかし、農家自身が小規模な苗畑を作れるよう普及活動を行った結果、自分たちが望む苗木を自由に生産できるようになりました。地域住民が自らの力で植林を行う動きが徐々に広がっていったのです。

その後、苗木生産は収入を得るための仕事としても定着し、苗木や資材の販売を専門とする人々も増えていきました。

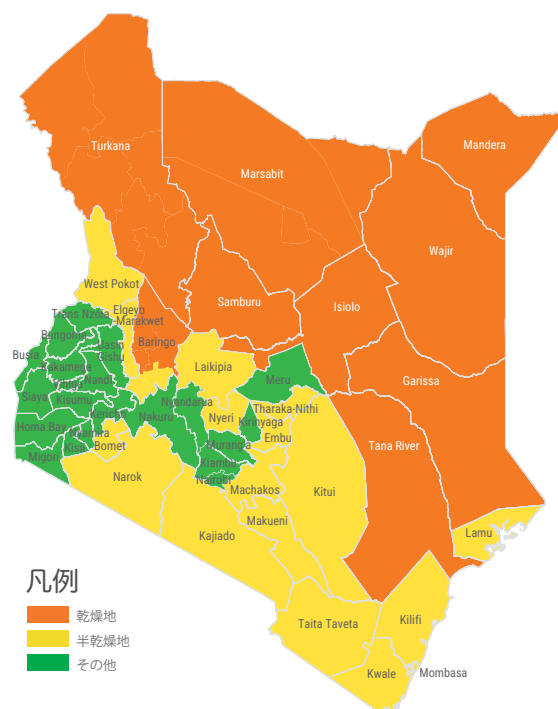
ちなみに、この農家グループによる苗木生産は、周辺国であるタンザニアやエチオピアの森林づくりの取組においても、標準的な植林普及手法の一つとして取り入れられてきています。

（2）郷土樹種メリアの苗木生産手法の開発

長年の試行錯誤の中で、結果的に有望な樹種の一つとして選ばれたのが、現地で「メリア」と呼ばれるセンダン科の郷土樹種でした。この木は乾燥に強く、材質も家具や造作材に適

ケニアでの林業技術協力の歩み（JICA）

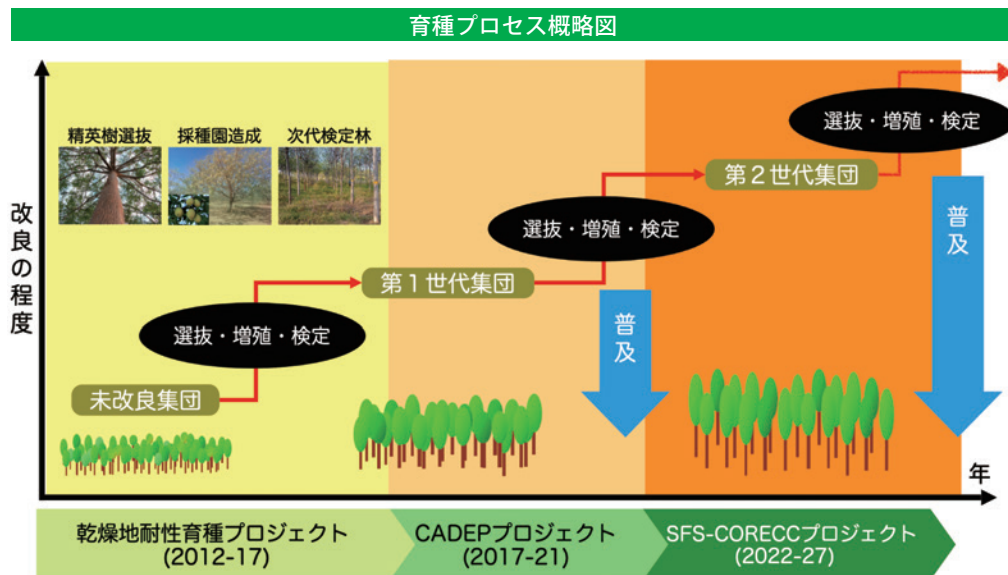
- 1985** 林業育苗訓練技術協力計画
- 1987** ・日本がアフリカ地域で行った最初の林業技術協力プロジェクト。
- 1987** 社会林業訓練計画（SFTP）フェーズ1
- 1992** ・半乾燥地での育苗・造林の訓練・技術開発・普及活動。
- 1992** 社会林業訓練計画（SFTP）フェーズ2
- 1997** ・半乾燥地での育苗・造林の訓練・技術開発・普及活動、ジェンダー配慮。
- 1997** 半乾燥地社会林業普及モデル開発計画（SOFEM）
- 2002** ・半乾燥地での住民主導の社会林業の普及モデルの開発・試行。
- 2004** 半乾燥地社会林業強化計画（ISFP）
- 2009** ・ケニア森林公社による農地林業拡大のための住民支援の取り組みの拡大。
- 2012** 気候変動への適応のための乾燥地耐性育種プロジェクト
- 2017** ・ケニア森林研究所に対する育種研究と乾燥に強い在来種の開発。
- 2016** 持続的森林管理のための能力開発プロジェクト（CADEP-SFM）
- 2021** ・森林政策、県政府による林業普及、林木育種、地域協力含む包括的支援。
- 2022** 持続的森林管理・景観回復による森林セクター強化及びコミュニティの気候変動レジリエンスプロジェクト
- 2027** ・森林政策、商業造林推進、林木育種、地域協力含む包括的支援。



した優れた特性を持っていました。しかし、種子がオニグルミのような硬い殻に覆われており、そのまま土に播いてもなかなか発芽しないため、当初はほとんど苗木を生産できませんでした。その後、殻を割る技術の開発が進み、少しずつ苗木を生産できるようになりました。ところが、この木は苗を育てる段階でも取扱いが難しく、種を播いた後は湿度と温度を保つ必要があり、移植後は風にも弱いいため、シートで覆うなどの工夫が必要でした。このような技術が15年にわたる試行錯誤の中で徐々に確立され、メリアの苗木を大量に生産し、植林することが可能になったのです。

後期のメリア育種プロセスから現在まで（2004-2026）

野生のメリアには幹の曲がりや太い枝が多く見られたため、それらの改善方法についても検討が始まりました。



2005年、独立行政法人林木育種センター（現・国立研究開発法人森林研究機構森林総合研究所林木育種センター）からの短期専門家の派遣以降、成長や形質に優れたメリアの木を選抜する育種の取組が進められました。その後、2012年からは林木育種を目的としたプロジェクトも開始され、接ぎ木によって優れた木と同じ性質を持つ木を集めた採種園が造成されました。現在では、その2世代目にあたる木の試験が行われています。これらの改良され



初期の育苗試験（提供者：小西秀夫）



小規模苗畑普及の試み（提供者：小西秀夫）



メリア苗移植後の保護



改良メリア1.5世代採種園



改良メリア造林農家への研修



農家による改良メリア造林地

おわりに

40年を経て、かつては不可能だった半乾燥地での大規模植林も、今では育種改良されたメリアを活用することで、技術的には実現可能になりました。植林木が未だ伐期を迎えていないため、メリアの利益がどの程度かといった実績はありませんが、大都市の木材加工業者におけるメリアへの

たメリアの成長や形質に対する民間事業者からの評価は高く、さらなる改善が期待されています。

また、2018年にはこの改良メリアの育林ガイドを作成し、現在もこれに基づき森林づくりを地域の農家や民間事業者に普及しています。しかし、地域の農家の中には、せっかく植えた木を切るなんて「もったいない」と思うのか、間伐が実行されないケースもあり、これが木材生産を目的としたメリアを育成する上での大きな課題となっています。

の潜在需要に込められるよう、安定的な生産量の確保に向けて着実な前進を図っています。

現行のプロジェクトは2027年1月末で終了しますが、ケニア政府や現地企業、地域住民からは、本取組によって培われた技術や仕組みが今後も定着し、発展していくことへの期待が寄せられています。生産・供給体制の構築などの課題を乗り越え、改良メリアによる造林がさらに広がることで、地域住民の生計向上と持続的な木材供給の実現につながることが期待されます。



筆者：小川 慎司

所属・肩書：
アイ・シー・ネット株式会社、
シニアコンサルタント

●筆者とケニアの森林プロジェクトの関わり

プロジェクト開始から6年ほど経った1991年から2年間、2004年から3年間、そして2024年から現在までの2年間について、長期での専門家として携わっておられ、現在はチーフアドバイザーを務めていらっしゃいます。この間も折々に調査団員や短期専門家として幾度も訪れ、尽力されており、ケニアの森林協力を概観できる数少ない専門家です。

林業高校における スマート林業教育の取組について

林業の現場では、スマート林業技術の実装により、労働安全の確保や生産性の向上、労働負荷の軽減が進められています。一方、全国に約70校ある林業高校では、森林・林業に関する知識や技術を学ぶ教育課程を編成していますが、教材の不足や教員が十分な知識・経験を得られる機会が少ないことから、多くの林業高校ではスマート林業教育の実施にあたって課題を抱えています。

このような課題の解消に向け、林野庁では、林業高校においてスマート林業に対する学びの機会を確保し、林業への就業に関心を高めてもらうと同時に、即戦力として期待される人材の育成につながるよう、令和4年度から7年度までスマート林業教育推進事業を実施しました。この事業のメニューの1つである「地域協働型スマート林業教育プログラム」は林業高校と地域の林業経営体、地方公共団体が連携して、スマート林業について学ぶプログラム（授業）を作り実践するというものです。このメニューを活用した事例を2つ紹介します。

神奈川県立吉田島高校

（令和4年度実施）

吉田島高校では、57年ぶりとなる演習林の立木の販売と、主伐再造林に向けた森林調査を限られた授業時間内で進めるため、スマート林業技術を既存の授業計画に組み込んだ教育プログラムを実施しました。

実施に当たり、神奈川県（県西地域県政総合センター）及び神奈川県森林組合連合会と検討委員会を設置し、全3回で構成される次の授業を行いました。

- ① 間伐による立木販売の予定箇所でのタブレット端末による林業計測アプリを活用した、立木調査と評価額算出
- ② 路網設計支援ソフトを活用した設計及び現地踏査
- ③ 主伐再造林予定箇所の森林資源量を把握するためのUAV画像の解析※と林業計測アプリを用いた標準地調査

※ 無人航空機（UAV）を用いて撮影した画像を解析し、三次元データを生成する技術

本取組の成果として、従来の調査方法では時間の制約で

実施できなかった立木調査や路網設計も、スマート林業技術の活用により時間が大幅に短縮できることを教員と生徒が共に体験しました。

また、吉田島高校では、授業で得られたデータを活用し、立木販売の発注を実現しました。

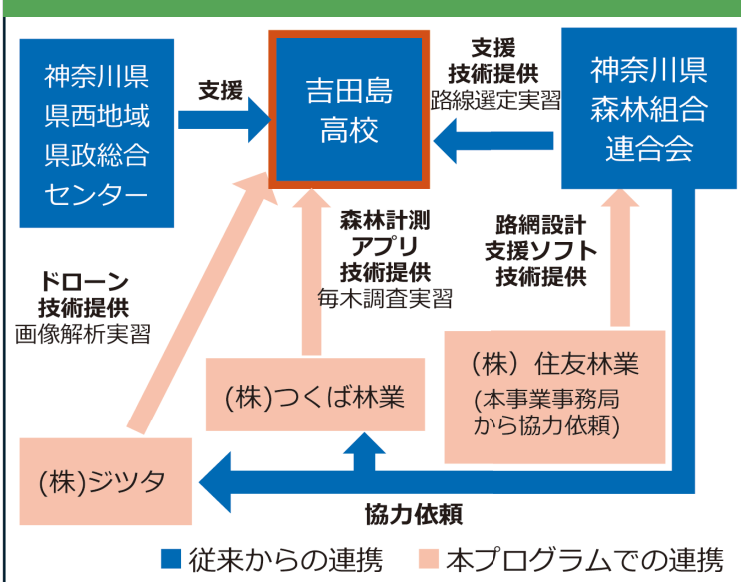


森林3次元計測システムOWLで計測



タブレットと輪尺で調査・比較

吉田島高校スマート林業教育プログラムにおける協力体制

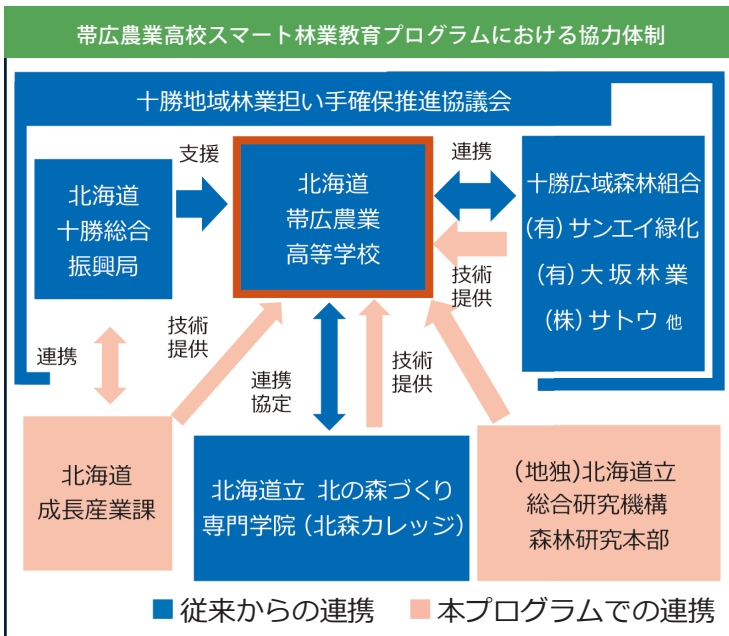


北海道帯広農業高校

(令和6年度実施)

帯広農業高校の学校林ではカラマツ人工林の林齢構成が高齢に偏り、実習での活用が困難な状況にありました。この課題解決のために一部伐採し林齢構成の平準化を図ることに即戦力となる人材の育成を目的に、帯広農業高校は十勝地域林業担い手確保推進協議会や北海道立総合研究機構、北海道立北の森づくり専門学院（北森カレッジ）などと検討委員会を設置し、スマート林業に関する全5回で構成される次の授業を行いました。

- ① スマート林業の基礎知識の講義と北森カレッジのハーベスタシミュレーター体験
- ② GNSS（全球測位衛星システム）を利用した位置



GISを使用した測量データの操作実習



GNSSによる位置誘導モニタ付きコンテナ苗植穴掘り機

- ③ 誘導装置及び植穴掘り機によるコンテナ苗の植栽
- ④ UAV画像から樹頂点の判読によるカラマツ林の本数調査

⑤ GNSSによる測量及びGIS上での図化と、LiDAR（光検出・測距システム）による資源調査

- ⑤ ICTハーベスタによる学校林伐採現場の見学とハーベスタに搭載された電子輪尺の補正体験
- 本取組の成果として、カラマツ林の一部伐採による林齢構成平準化に向けた動き出し、地域事業体との連携体制の構築、学校林経営への意識向上といった効果も得られています。生徒からは「スマート化で「安全になったことが多かった」「就業増につながると感じる」といった感想が多く聞かれ、林業への前向きな姿勢が生まれました。



きょうべん

吉田島高校では、その後皆伐予定地の調査実習を森林3次元計測システム「OWL」で行っており、当初作成した教育プログラム以外のスマート林業教育にも取り組んでいます。また、帯広農業高校でも連携体制を継続し、令和7年度以降も引き続き教育プログラムに沿った実習に取り組んでいます。

本紙面で紹介した2校を含め、全国で12の林業高校がスマート林業教育プログラムの作成・実施に取り組んでいます。プログラムの詳細は、左記林野庁ウェブサイトで公表しています。ぜひご覧ください。

林業高校におけるスマート林業教育プログラム
https://www.rinya.maff.go.jp/j/ken_sidou/fukyuu/chiki.html





森林総研の最新研究

終わらないマツ材線虫病被害、 終わりに研究対応

森林総合研究所

① はじめに

ひと頃は全国的な被害量も落ち着いて「過去のもの」的な扱いになりつつあったマツ材線虫病（松くい虫）の被害ですが、ここ数年の夏の異常高温の影響もあって各地で深刻な被害拡大が生じ、改めて注目を集める事態となっています。終わらないマツ材線虫病の被害にどのように対処していけばよいのか、森林総合研究所での最近の研究事例を紹介しつつ、考えていきたいと思います。



マツ材線虫病で枯れたアカマツ

② マツ材線虫病とその防除技術

かつては松の木の樹皮下を食害する複数の種の穿孔性昆虫による被害と考えられていた「松くい虫」の被害が、じつはそれらの穿孔性昆虫の一種であるマツノマダラカミキリ（以下「カミキリムシ」という。）が媒介するマツノザイセンチュウ（以下「線虫」という。）を病原体とする伝染病である



媒介昆虫
「マツノマダラカミキリ」



病原体
「マツノザイセンチュウ」

ことが、1970年に当所の前身である国立林業試験場の研究者によって明らかにされました。これに基づき、本病は「マツ材線虫病」と名付けられ、線虫、あるいはその媒介者であるカミキリムシをターゲットに据えた防除技術が開発されてきました。

マツ材線虫病の防除手法は、感染源である線虫を持ったカミキリムシの発生を抑制する「駆除」と、感染の対象となる松が病気にかかりにくくするための「予防」に大きく二分されます。駆除では、松の枯れ木に生息するカミキリムシが夏季に成虫として脱出するより前の幼虫や蛹の時期に、枯れ木ごと焼却、破碎、あるいは薬剤処理して死滅させる方法がよく知られています。枯れ木から脱出するカミキリムシ成虫を昆虫病原菌に感染させる、あるいは被害木をシートにくるんで成虫を封じ込めるといった手法も開発されています。予防では、松の枝葉に薬剤を付着させておいて感染機会となるカミキリムシ成虫による枝の摂食を防ぐ予防散布と、線虫の活動を抑制する薬剤を事前

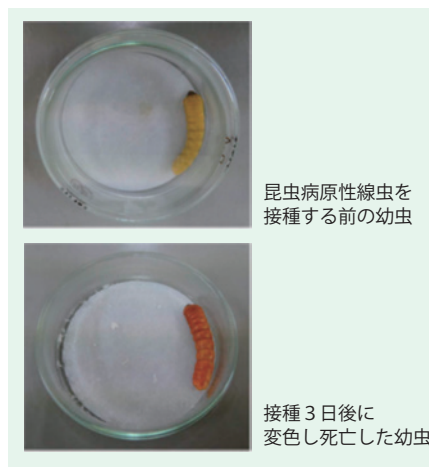
③ 新たな防除技術開発に向けて

に松の樹体に行き渡らせておく樹幹注入が広く用いられています。育種研究の成果である「マツノザイセンチュウ抵抗性品種」の苗木を使った植栽も、予防の枠組みに含まれると考えてよいでしょう。

上述のように、マツ材線虫病対策では、駆除ー予防散布ー樹幹注入ー抵抗性苗木栽からなる防除体系が確立されてきましたが、関連する技術の進展や社会の要請を踏まえ、個々の手法の更なる研究開発が進められています。例えば、現行の駆除や予防散布は化学農薬への依存が高いものですが、環境意識の高まりや健康被害への懸念などに対応する生物的防除技術への期待がますます高まっており、取組を進めています。

カミキリムシの天敵として、捕食ないし寄生性の昆虫、昆虫病原菌、キツツキ類などの防除利用が研究されてきました。そして現在、我々はカミキリムシに対して強い

殺虫力を示す昆虫病原性線虫の一種に注目して研究を進めています。この線虫は、1〜2頭という少数が侵入しただけでもカミキリムシ幼虫を死亡させることがあり、また雌雄同体であるため少数の線虫が虫体に侵入するだけで大量の次世代線虫を得ることができず。目下、この昆虫病原性線虫を駆除に用いるための研究を進めています。昆虫病原性線虫の殺虫活性を担っているのは線虫自体ではなく共生細菌や関連細菌であることから、単離した細菌を利用した防除技術の開発に向けた研究も進めています。

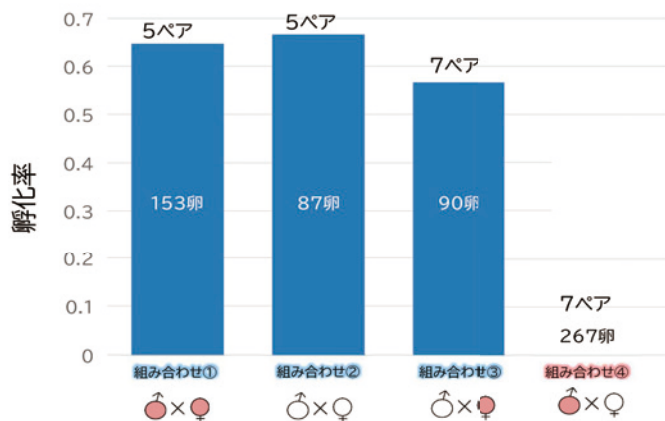


一方、当所では、最新の害虫制御技術としてアメリカ等で農業害虫を対象に研究開発が進められているRNA農薬のカミキリムシ防除への適用に向けた研究にも取り組んでいます。RNA農薬とは、人為的に合成された特定のRNA※を害虫に取り込ませることで標的とするRNAの働きを抑制し(RNA干渉)、害虫の生育を阻害しよう

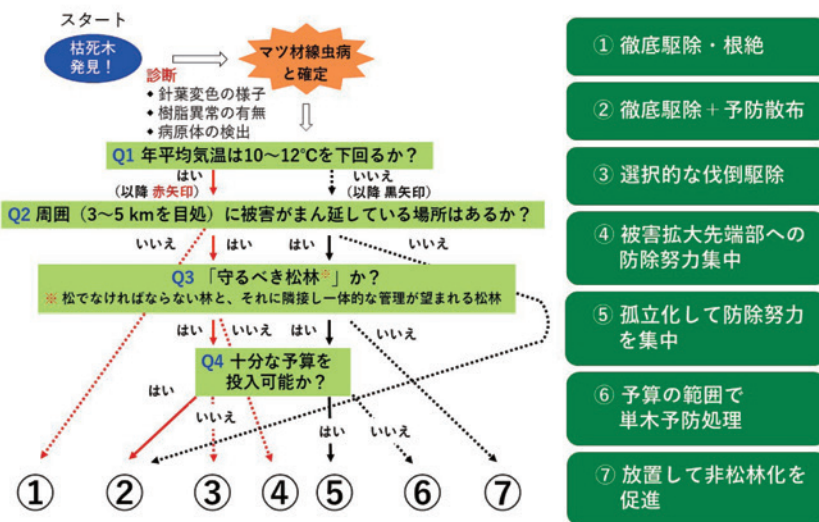
とするものです。対象の生物への高い特異性や環境低負荷な特性から、化学農薬の代替として有望視され、RNA農薬は農林水産省「みどりの食料システム戦略」においても開発・普及が求められています。

また、少し異なった視点から、昆虫の細胞内共生細菌ボルバキアの防除利用に関する研究も進めています。ボルバキアは昆虫の生殖システムを操作する共生細菌で、感染個体と非感染個体の特定の組み合わせで宿主昆虫の繁殖を不可能にするといった現象が知られています。カミキリムシからはボルバキアは見つかっていないのですが、近い分類群のピロウドカミキリでボルバキ

ピロウドカミキリのボルバキア感染個体(赤印)と非感染個体(白印)を掛け合わせて得られた卵の孵化率の比較



状況に応じたマツ材線虫病への対応方針を検討するためのフローチャート



マツ材線虫病にどう対処するかー防除対策の考え方と実践ー
<https://www.ffpri.go.jp/pubs/chukiseika/5th-chuukiseika11.html>

進行する温暖化によりマツ材線虫病の発症、被害地域拡大が促進される一方で、薬剤使用の制約により防除の強度の維持が難しくなっています。森林総合研究所では、様々な状況の変化を踏まえ新たな防除技術の開発や防除計画立案の支援などを通じ、これからもマツ材線虫病対策に貢献していきます。

5 おわりに

提案しました。地域ごとの防除計画を最適化するためのツールになればと考えています。

4 地域の防除計画立案を支援するツール

このように、新たなマツ材線虫病防除を目指して様々な技術開発が行われています

アの感染が発見されています。これをカミキリムシに導入することができれば、その個体群を制御できる可能性があります。※ RNA(リボ核酸)・DNAに保存された遺伝情報を基にタンパク質を作るなどの働きを担う

が、これらとて国内に蔓延してしまったマツ材線虫病を一気に終息させるような「夢の技術」にはなり得ません。予算、労力に限界のある中で進められるマツ材線虫病対策では、森林病害虫等防除法に示されるように、守るべき松林を限定し、防除努力を集中して守り切ることが必要不可欠です。そこで当所では、各地の状況に応じた具体的な防除の指針を示すことを目的として、地域の条件に合わせて4つの簡単な質問に答えると「放置・非マツ林化」を含む7つの対応方針のいずれかに至るフローチャートを提案しました。地域ごとの防除計画を最適化するためのツールになればと考えています。

森林総合監理士が実践する未来へつながる人づくり ～国有林フォレスターとしての役割と展望～

北海道森林管理局 森林整備部 技術普及課長 根本 治

はじめに

～国有林の森林総合監理士として～

私はこれまで長年国有林野事業に携わり、森林整備や路網整備をはじめ、民有林との連携や技術支援など幅広い業務を経験してきました。現在は北海道森林管理局（以下「道局」という。）に勤務しており、平成25年に森林総合監理士の資格を取得して以来、人材育成のほか民有林の管理を担う森林組合などに対する技術支援を行ってきました。森林所有者や市町村等が抱える林業の課題解決に向け、各森林管理署等と連携し、技術的助言や普及活動に取り組んでいます。

北海道庁と連携した取組

道局では、北海道庁（以下「道庁」という。）と連携し、『フォレスター活動民

国連携調整会議』を開催しています。本会議では、市町村等への技術的支援や民民間の協力等により、効果的な取組を進めるため、研修計画や、林業技術の向上につながる現地検討会の実施計画などについて相互に情報共有を行っています。また、北海道独自の取組として、原則、道内全ての市町村に設置されている『市町村森林整備計画実行管理推進チーム』の活動状況も道庁側から道局へ共有されており、森林組合や林業事業体、道庁出先の振興局森林室、森林管理署など地域の林業関係者が連携し、市町村森林整備計画の推進やICTの活用など、地域が抱える林業の課題解決に向けた検討を進めています。さらに、道庁が開催する『未来につながる森林づくり交流会』や『林業普及指導員北海道・東北シンポジウム』、道局が主催する『北の国・森林づくり技術交流発表会』において相互に登壇し合う

など、普及機会の共有を図っています。また、全道の民国連携や市町村支援の優良事例を道庁と道局の双方の機関紙で相互に発信するなど、民国関係者同士をつなぐ

橋渡し役も担っています。こうした取組を通じて、新たな人とのつながりが生まれるなど、私自身、人間関係を深める良い機会となっています。

「フォレスター活動民国連携調整会議」通信

＜優良事例の紹介＞ Vol.8 2026.3

フォレスター活動民国連携調整会議は、北海道及び北海道森林管理局の森林総合監理士（フォレスター）等が、市町村等への技術的援助やその他必要な協力を円滑かつ効果的に実施するため、情報共有の徹底と連絡・調整を図ることを目的に設置しています。

北海道勇払郡厚真町

胆振東部地震により崩壊した林地の再生に向けた取組

被災状況・森林現況の把握、被災地復旧に向けた現地見学会の実施

＜関係機関＞

厚真町、苫小牧広域森林組合、胆振東部森林管理署 等

背景と経過

現 状

・平成30年9月に発生した胆振東部地震により、厚真町では甚大な林地崩壊が発生した。これを受け、関係機関等にて設置された「胆振東部森林再生・林業復興連絡会議」において、被災森林復旧指針及び森林再生実施計画を策定し、令和4年度から令和8年度の5年間で集中的に森林整備を進めている。

問題点

・森林再生実施計画に基づく被害木処理や植林等は概ね計画通りに進んでいる。一方で、自然回復を図ることとしている対象地の一部において、カラマツ実生苗が高密度に天然更新している箇所が確認されており、カラマツ天然更新を活用した森林復旧が期待されているが、大規模な崩壊による植生基盤が流出した条件下での植栽や天然更新の事例が少ないことから、今後の生育、保育手法等が確立されていない。

課 題

・発生した個体の今後の推移や、保育の必要性・手法の検証が必要。

解決策

・地域の林業関係者等を対象に、国有林のカラマツ天然更新地の現地見学会を開催し、国有林の知見やフィールドを活かした情報発信等を通じて、理解を深めていただくとともに、今後の保育方法等の検討に資する。



「フォレスター活動民国連携調整会議」通信

<https://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/sidou/forester/cooperation/index.html>

人材育成にかける想い

～森林総合監理士育成に向けた研修の実践～

前述の経験を生かし、私は現在、林野庁や道局が主催する研修会や勉強会で講師を務めています。若手・中堅職員を対象とした『民有林支援・連携推進研修』では、自身の市町村への出向経験を踏まえ、作業地の集約化や民国連携した共同土場の活用等を行う各種協定の締結、森林環境譲与税を活用した取組など、民有林行政や地域連携の取組事例を紹介しています。技術や制度の説明にとどまらず、自らが現場で経験した事例を交えながら伝えることで、受講者が実務の中で活用できる実践的な学びとなるよう心掛けています。



北海道森林管理局施設見学での説明

各種研修等において私が特に重視しているのは、“現場で考え、現場で判断できる人材”の育成です。森林管理の現場では、地域ごとに自然条件や社会的背景が異なっており、マニュアルだけでは対応できない複雑な課題が数多く存在します。そのため研修では、地域の林業課題を各自で付箋に書き出してグループ内で共有し、その多様な課題の解決に向けた方策などを検討していくワークショップや意見交換を積極的に取り入れ、受講者自身が課題を分析し、解決策を導き出す力を養うことができる参加型の学びを提供することを大切にしています。

また、全国の市町村職員や民有林関係者を対象とした林野庁主催の「スマート林



民有林支援担当者会議でのワークショップ

業技術者育成事業」等の研修にも携わり、QGIS等のICTを活用した森づくり構想の演習やグループワークを通じて、森林総合監理士や森林総合監理士を目指す者の技術力向上を図っています。

こうした人材育成は、国有林と民有林が連携しながら地域課題の解決に取り組む体制づくりにも資するものと考えています。森林総合監理士には、森林・林業に関する専門的な技術力だけでなく、多様な立場の関係者をつなぎ、合意形成を図る調整力やコミュニケーション力が求められますので、そうした能力の重要性を伝え、次世代の担い手を育成していくことも私の重要な役割であると考えています。



森林総合監理士実践研修

さいごに

～これからの森林づくりと人づくり～

近年、気候変動への対応や生物多様性の保全、森林経営管理制度の推進など、森林・林業を取り巻く課題は多様化しています。こうした中、地域の関係者をつなぎ、森林管理を総合的に進める森林総合監理士の役割はますます重要です。

私は、“人を育てることは森林の未来を育てること”だと考えています。森林は長い年月をかけて育つ資源です。その森林を守り育てる人材もまた、一朝一夕には育ちません。これからも人づくりを通じて、豊かな森林を次世代へ引き継いでいきたいと思います。

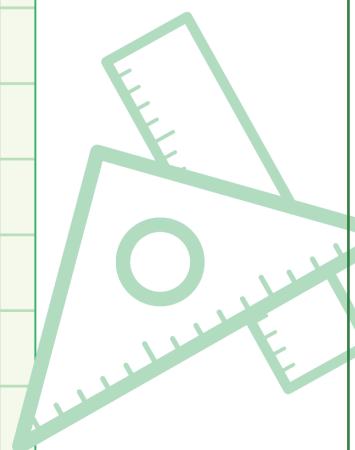
令和7年度 スマート林業
推進技術者育成事業 報告書

https://www.rinya.maff.go.jp/j/ken_sidou/forester/attach/pdf/index-274.pdf



森林総合監理士フォロースター
参考資料

https://www.rinya.maff.go.jp/j/ken_sidou/forester/index.html#sankosiryo





瞬間サンプリング法による 野生動物の生息密度調査について

関東森林管理局 保全課

はじめに

近年、ニホンジカ（以下「シカ」という。）をはじめとする野生動物による森林被害が全国的に深刻化しており、人間との軋轢が大きな問題となっています。この問題を解決するためには、野生動物の生息密度や増減傾向を正確に把握することが重要です。しかしながら、従来の人力による調査は多大な労力を要する上に、観測誤差が大きい。ため、作業の省力化及び精度の向上が課題となっていました。

当局では、(国研)森林総合研究所との「シカ被害対策に関する協定」に基づき、令和6（2024）年から、瞬間サンプリング法を用いた新たな手法による生息密度の調査に取り組んでいます。

瞬間サンプリング法について

自動撮影カメラを用いた調査は、従来の人力による痕跡調査法※1やライントランセクト法※2などと比較して、調査員の習熟度に依存せず安定した調査結果が得られることや、夜間を含む長期間の調査が

可能であるといった利点がありますが、生息密度の推計には入手が困難な動物の平均的な移動速度データを必要とするという問題がありました。

このような問題を解決するため、米国で開発されたのが瞬間サンプリング法です。瞬間サンプリング法は、タイムラプス機能※3を用いて一定間隔で撮影を行い、大量の撮影画像の中から動物が写っている画像をAIソフトで自動抽出した上で、撮影頭数と撮影面積の比から生息密度を計算する手法です。

この手法は、動物の移動速度データが不要であることだけでなく、タイムラプス機能を用いることでカメラの感知性能や誤作動による影響を受けにくいこと、撮影後速やかに生息密度の計算が可能であること等の利点もあります。

※1 動物が残した痕跡（足跡、糞、食痕、毛、角擦り跡など）から生息状況や行動を把握する調査方法

※2 調査区域内に設定した直線（トランセクト）に沿って移動しながら、生物の個体数や出現状況を記録する方法

※3 設定した時間間隔ごとに自動で撮影を行うセンサーカメラ等の機能

管内概要

所在地

群馬県前橋市岩神町4丁目16番25号

区域面積

710万 ha

うち森林面積 407万 ha

うち国有林面積 119万 ha

関係自治体

1都10県

福島県、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、山梨県、静岡県



関東森林管理局は、1都10県に所在する約119万 haの国有林を管理経営しています。管内の国有林の多くは本州中央部の山岳地帯に位置し、利根川、信濃川、阿賀野川、阿武隈川、那珂川などの源流域を有しており、首都圏をはじめとする大都市の「水がめ」として、良質な水を供給する重要な役割を果たしています。また、管内の国有林の約4割が自然公園区域に指定されており、日光、尾瀬、上信越高原、富士箱根伊豆、小笠原など多くの国立公園が存在しています。富士山をはじめ、日本を代表する山岳景観や豊かな森林生態系に恵まれ、自然環境の保全と国民の保健休養の場として広く活用されています。



■ 国有林野

※ 島諸部については該面の都合により割愛しています

令和7年度に実施した調査について

令和7(2025)年6月から8月にかけて、当局管内の森林管理署等10署で瞬間サンプリング法による調査を実施しました。調査では、動物の移動状況を客観的に評価するため、約1km²の調査区ごとに、12地点を無作為に選定し、自動撮影カメラを設置しました(図1)。カメラは地上約1mの高さに水平に設置し、5分間隔で撮影を行いました(写真1)。回収した画像は、AIソフト(AdaxAI)により野生動物が写ったものを抽出後、職員が確認し、獣種の特定および頭数の記録を行いました。

調査の結果、イノシシ、ツキノワグマ、カモシカ、ノウサギなど多様な野生動物が記録されましたが、その中でもシカはほぼ全ての調査地で記録され、撮影数も他の獣種と比較して圧倒的に多い結果となりました(写真2)。瞬間サンプリング法により推定されたシカの生息密度は、最も高い地域で21・1頭/km²、最も低い地域で0・3頭/km²と、地域差が大きく、シカが記録されない地域もありました。なお、イノシシ

については最大4・5頭/km²となっています(図2)。これらの結果は、これまでに公表されているシカの推定生息密度と概ね同じ傾向を

示しており、各地域の最新の生息状況を把握する上で瞬間サンプリング法が有効であることがわかりました(図3)。

おわりに

今後は、精度を保ちつつ労力を低減することが出来るカメラの設置台数や、撮影間隔等について検討を進めるとともに、調査マニュアルに反映させていく予定です。また、局所的な生息密度を速やかに推計できる瞬間サンプリング法の特徴を活かし、生息密度推計と捕獲による個体数抑制効果との相関や、野生動物の生息密度と森林被害との関係も明らかにしていきたいと考えています。

図1

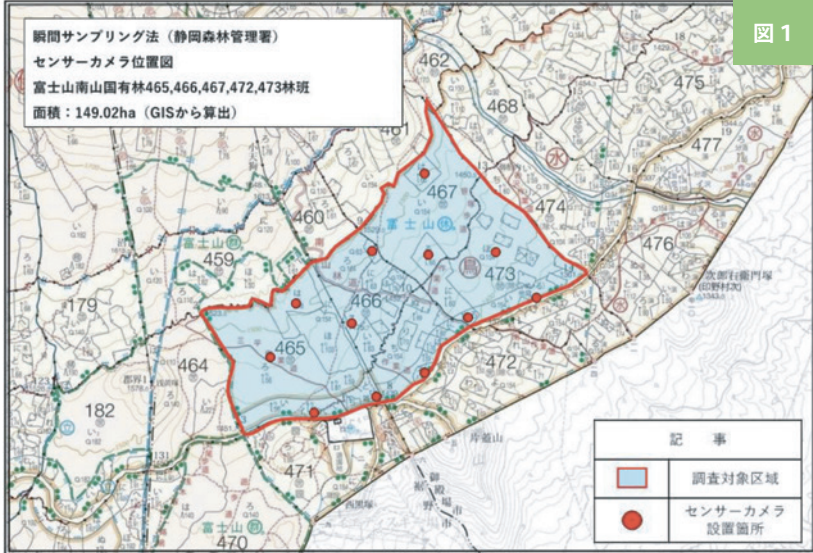


写真2

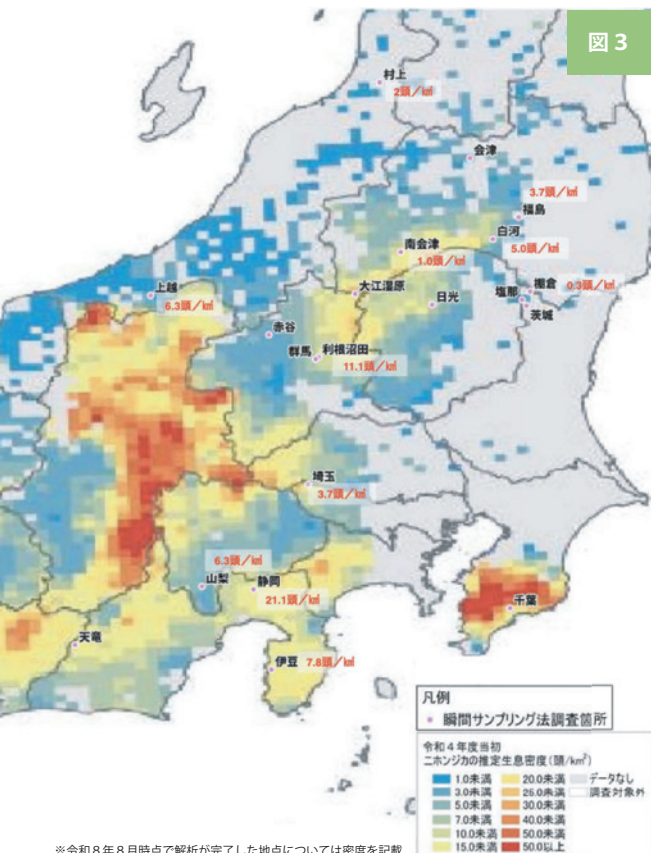


※青枠についてAIが動物と判定し、信頼性が高いほど、数値が高まる。この場合は、98%動物と判定。

写真1



図3



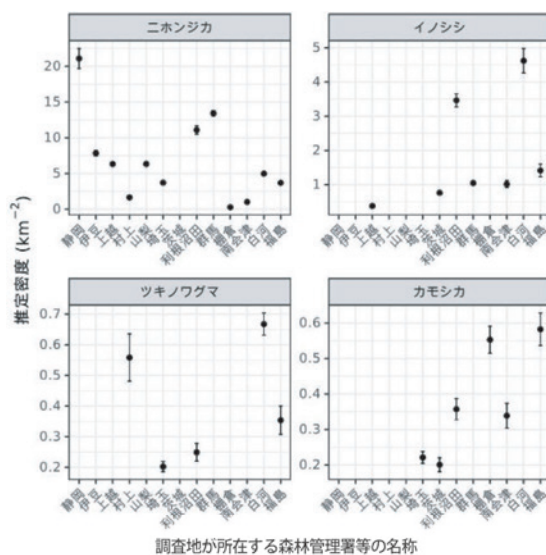
※令和8年8月時点で解析が完了した地点については密度を記載

出典：本州以南のニホンジカ密度分布図(令和4年度(2022年度):中央値)(環境省)

図2

瞬間サンプリング法で推定された個体密度

※エラーバーは標準誤差を表す
※令和8年8月時点で解析が完了した地点について作成



04 こども霞が関見学デーを開催しました！

霞が関の各府省庁等が連携して、夏休み期間中に子供たちが広く社会を知る機会を提供し、政府の施策に対する理解を深めてもらう「こども霞が関見学デー」が、今年は7月29日と30日に開催されました。

農林水産省では、2日間で延べ8,669人の来場があり、会場プログラムには多くの子供たちに参加いただきました。林野庁では、子供たちに森林・林業・木材産業の面白さや大切さを知ってもらうために、4つの会場プログラムを実施しましたので、その様子を紹介します。

森のたんけん隊

～森をたんけんして隊員証をゲットしよう！～

森林浴やマウンテンバイクのVR体験ができるプログラムや、講師に森林インストラクターを迎え、森林の働きや樹種ごとの特徴等について学べるプログラムを実施しました。

VR体験をした約1,000人のうち650人に「森のたんけん隊」隊員証を、葉や枝の標本を観察して樹種を当てる「子ども樹木博士」の認定テストに合格した約450人に認定証を授与しました。



もりにあるいろんな木は どう使われている？

多様な樹種の木のボードや木の実、木を薄くスライスしたツキ板やCLTを使った製品等の展示を行い、木の色味や質感の違いなどを実際に見て、触って体感できるプログラムを実施しました。

「どの木が一番重いんだろう？」と子供たちは興味津々に考えており、木材の面白さを知ってもらえるプログラムとなりました。



木づかいチャレンジ！ オリジナルフォトフレームづくり

木のパーツを組み合わせて、オリジナルのフォトフレームを作るワークショップを開催し、2日間で50人以上の子供たちが製作に挑戦しました。

子供たちは職員に作り方を教わりながら、「このパーツはどうやってくっつけるんだろう？」と真剣な表情で取り組んでいました。



おやまの小さななかまたち ～食べておいしいきのこたち～

原木に生えているしいたけ、菌床栽培のえのきたけ・ぶなしめじの触感体験やきのこの人気投票、炭製品の展示など特用林産物と触れ合えるプログラムを実施しました。特に職員が製作した「竹琴」は実際に叩いて音色を楽しんでもらい、子供たちに大人気でした。



また、6月30日から特設ウェブサイト「マフ塾2026」がリニューアルして公開されています。林野庁では、『「木づかい」しよう～木を使うのは良いこと？～』と題して、子供にも分かりやすい情報や森林(もり)の環(わ)応援団のサザエさんとの対談動画などを掲載しています。当日ご来場いただけなかった方や農林水産省に興味のある方は、ぜひご覧ください。

マフ塾2026 ▶

https://www.maff.go.jp/j/kids/kodomo_kasumi/2026/juku/index.html



「木づかい」しよう！
木を使うのは
良いこと？



しげん、じゅんかん、やくのり、おののさだかず、もり、わおらんたん
森林資源の循環や森林が果たす役割について、森林の環 援団のサザエさん

みどりの大使 が行く!



...CROWN...
2026

ミス日本みどりの大使

ながた まなみ
永田 愛実

を務めました。林野火災が発生すると、長年かけて育まれた森林環境のみならず、森とともにある地域の営みごと失われます。だからこそ、被災森林をどのように再生し、被災木をどのように活用していくのかを考えることは、森を「元に戻す」だけではなく地域の未来を考えることであり、森林を守るとは地域の暮らしや文化、未来をつないでいくことだと感じました。

moritimiraiのファシリテーター

山梨県にて、山梨日日新聞社が開発したオリジナルカードゲーム「moritimirai」の体験会が開催され、ファシリテーターを務めました。「moritimirai」は参加者が、異なる仕事や目的を持つ10種のプレイヤー（森林の所有者、森林組合、猟師、行政、住宅メーカーなど）になり、各立場で仕事や生活に関わるアクションを行って、「森の未来」を作るゲームです。ポイントは、「何が大切なのか」が異なることです。森林環境の保全、木材利用、地域産業の維持など、全てを同時に実現するのは簡単ではありません。だからこそ、対話により互いの考えを知りつつ森の未来を考えることに大きな意味があります。

防災士の資格取得

林野火災・被災木利用セミナー

岩手県主催の昨年大船渡市で発生した林野火災跡地の森林再生と、被災木の利用について考えるセミナーで司会



参加者は、森について「一緒に考え」「共感を得る」ことの大切さまで教えてくれるゲームを夢中で楽しんでいました。森林や林業に関心を持つ人が増え、それぞれの立場から森を考えることが大切だと感じました。

愛実のつなぐ・届ける・森の声

「森には、まだ知らない価値がある」

これは第20回森林組合トップセミナー・森林再生基金事業発表会にて、森林を活用した地域づくりを発表された南都留森林組合の参事、竹田仙比古さんの言葉です。

同森林組合では、林内にマウンテンバイクコースを設置し、新たな産業として展開しています。木材の生産とともに人が森を訪れて楽しむ新たな価値を生み出し、地域全体の活性化にもつながっています。お話を伺う中で、森の価値を未来へつなぐのは、森林に直接関わる人だけでなく、森を訪れ、森を知り、森を好きになる一人ひとりかもしれないと感じました。

今月、様々な活動を通し、私の中で「森を守る」ことの意味が、少し変わってきたように感じます。木々を守るだけでなく、人の命や暮らしを守り、地域の文化や産業をつなぎ、森の新しい価値を生み出していくことでもあると思います。今後も、一人でも多くの方に森に関心を持ってもらい、その人なりの形で森と関わるきっかけを作っていきたいと思っています。



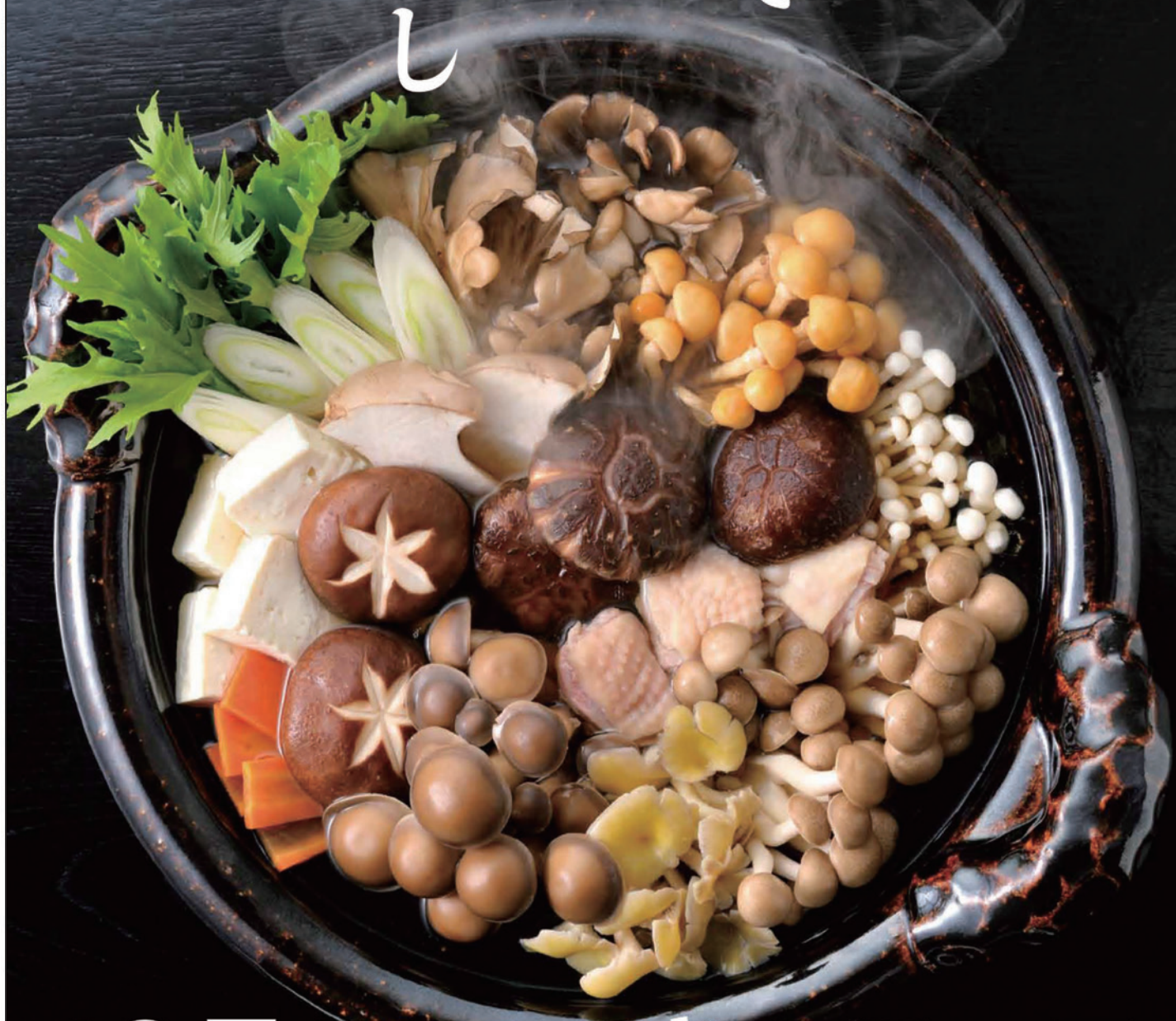
きのこので

きのこ料理のある

おいしい食卓には

幸福な笑顔が集まります。

おもてなし



10月15日はきのこの日

林野庁

日本特用林産振興会

